

一組に部落差別投書

差別を許さない取り組みを

7月17日、一組管理職全体会が開催され、6月20日に総務部総務課宛に送られてきた差出人不明の投書についての報告がありました。この全体会に引き続いて、各職場で全職員に対してこの問題についての報告と説明が行われています。

総支部に対しても7月17日に情報提供がありました。総支部では19日の常任執行委員会でこの事件について労働組合としての取るべき態度について討議し、以下のような委員長見解をまとめました。

これはあくまでもこの事件について取り組みを始めるに当たっての見解です。清掃局時代に起こった部落差別事件に直面し、清掃差別を始めとするあらゆる差別をなくしていく運動を労働組合として取り組んできた経験から出てきたものです。

今回の差別事件と取り組み、多くの人と討論する中で、この見解をさらに深め、豊かなものにしていかなければなりません。

常任執行委員会では見解の6により委員会を設置することになり、一組本庁も投書が送られてきた職場として世田谷工場、千歳工場とともに代表を出すことになりました。

今後、一組本庁支部としてもこの事件と積極的に関わっていく決意です。

清掃一組差別投書事件に関する見解

7月17日、一組当局より、総務部総務課に郵送されてきた投書について情報提供が一組総支部に対して行われた。一組総支部常任執行委員会はこの事件を重大な部落差別として受け止め、以下のとおり見解を明らかにする。

1 この投書の背景、意図は不明だが、一組当局から説明を受け、送られてきた投書（裏面参照）を読んだ時点で、この事件を部落差別と

して受け止める。

この投書は「同和の親戚関係職員」を暴き出し、職場から追い出し、さらに「撲滅」することを主張している。まさに被差別部落出身者の労働権、人権だけではなくその存在まで否定しようとする差別文書である。

2 これは文章を読んだ上での考えであり、今後の取り組みを通じて、さらに理解を深めていかなければならない。

3 東京の清掃職場では1995年の千歳事業所差別事件、2002年の中野事務所差別落書事件などの重大な部落差別事件を経験し、清掃工場でも1998年に差別葉書が千歳工場に送られてきている。しかし、2000年に一組が発足してからは初めての部落差別事件である。今回の事件を通じて、差別と真剣に向き合い、差別を許さない取り組みを始めることが問われている。

4 東京清掃労働組合は千歳事業所差別事件の経験を通じて、組合をあげて部落差別・清掃差別と取り組んでおり、そのための機関として人権啓発推進委員会を設けている。今回の事件を東京清掃本部に上げ、組合全体として取り組んでいくよう働きかける。

5 職場から部落差別を初めとする差別をなくしていくという点では、行政と労働組合の立場の違いはない。この事件と取り組む上で一組当局と必要な協力を行っていく。

6 この事件の事実の解明と解決に向けて、総支部内に関係職場代表を含めた委員会を設けて、取り組んでいく。

2007年7月19日
東京清掃労働組合
一組総支部委員長 岩田 正隆

いつになったら、わかるんだ

千歳工のバカ職員どもは、おまえらの職員に

同和関係の親戚がいることは、知っているぞ

世間を甘くみるなよな、見てるぞ

同和の親戚関係職員はつかうなよ

しっかり仕事をしろよ、アホな千歳よ

自称世田谷工、同和人撲滅の会



〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 3-5-1

東京区政会館内

東京二十三区清掃一部事務組合
総務部総務課

